

平成24年度 愛育保育園 事業報告

1. 保育開所総日数 293日
2. 開所時間 7:00 ~ 19:00
3. 給食総日数 243日

4. 保育児童数

年令 月	0才	1才	2才	3才	4才	5才	計	備 考	
								入所	退所
4月	3	22	15	30	21	14	105		
5月	5	23	16	30	21	14	109	0才 2人 1才 1人 2才 1人	
6月	7	23	16	30	21	14	111	0才 2人	
7月	8	23	16	30	21	15	113	0才 1人 5才 1人	
8月	8	23	15	30	21	15	112		2才 1人
9月	9	23	15	30	21	15	113	0才 1人	
10月	10	23	15	30	21	15	114	0才 1人	
11月	10	23	15	30	21	15	114		
12月	10	23	15	30	21	15	114		
1月	11	22	17	30	21	15	116	0才 1人 2才 2人	1才 1人
2月	12	23	17	30	21	15	118	0才 1人 1才 2人	1才 1人
3月	12	23	17	30	21	15	118		
計	105	274	189	360	252	177	1,357	広域入所園児数 3月現在 掛川市 3人	
月平均	9	23	16	30	21	15	113		
菊川市	87	250	182	360	252	177	1,308		
掛川市	17	24	6	0	0	0	47		
御前崎市	1	0	1	0	0	0	2		

5. 保育児童数の動きは、105名でスタートし、年度途中0才児を中心に受け入れ 16名入所 3名退所。最終118名で年間平均在所率は113%。育児休業及び育児短時間勤務制度（0才～3才）の支援がかなり普及してきた。しかし、正規社員がゆえに遅番早番保育の利用者が年々増えてきている。24年度は、1才児の需要が多いため、用途変更をした北側の和室（24.53㎡）を利用。0才児入所児対応含めて、年度途中に非常勤保育士を6名雇用して対応。

特別保育事業

①延長保育事業

7:00～19:00の11時間開所で7:00～8:00の延長保育を申請し、約590万円の補助金を受けた。

1日平均19名、年間延べ3,326名が利用。1学期は表1の通りだが、育児短時間勤務制度を利用していた保護者が、子どもが3才の誕生日を迎え育短の期限が終了することで、表2のように3学期は早番利用者が増えた。

一方、夕方の遅番保育では表3の人数で対応し、18:00を越えての保育児は7名。

早番・遅番保育を専属の非常勤職員で対応し、正規職員の業務軽減化を図った。

表1 1学期		表2 3学期		表3 遅番保育	
時刻	保育士対応	時刻	保育士対応	時刻	保育士対応
7:00～	保育士2名(交代制)	7:00～	保育士2名(交代制)	16:15～	保育士3名+補助1名
7:30～	保育士2名+補助1名	7:15～	保育士2名+補助1名	17:00～	保育士3名+補助1名
7:45～	保育士3名+補助1名	7:30～	保育士3名+補助1名	17:30～	保育士2名
		7:45～	保育士4名+補助1名	19:00	

②障害児保育

市の保健師及び相談支援員の園訪問を受け、保護者との発達相談や検査を受けてきた。また4才児全員は個別言語検査を行い、4名がことばの教室に通級。発達の気になる子7名に対して、保育士3名分(1日4時間)の補助を受けた。

@73,200 × 3名 × 12ヶ月 = 2,635,200円

内訳については3才児1名、4才児3名、5才児3名です。特に5才児の3名は、情緒障害・アスペルガー傾向・発達遅延・母子関係不安定による問題行動が多くあり、就学に向けて、手厚く対応してきた。このうち2名は就学指導委員会にもかけ検討を重ね、3名とも普通級に進み支援を受けている。

③緊急リフレッシュ事業

延べ324名の利用者があり(前年度257名)、年々増加傾向にあり。利用内訳は、幼・小の行事への参加が最も多く、通院、リフレッシュ、軽度障害児の預かり等たいへん喜ばれている。

H24年度緊急リフレッシュ保育事業補助金内訳(4時間以上4,400円 4時間未満2,200円)

	補助金額	単価(円)	人数(人)	0才	1才	2才	3才	4才以上
	4時間未満利用	2,200	157	23	50	69	11	4
	4時間以上利用	4,400	167	5	43	95	24	0
合計	1,080,200円		324	28	93	164	35	4

その他

①危機管理マニュアルの周知と見直し

特に園外に出る時には、園外保育危機管理チェック票、園外保育事前届け出(下見と計画書)を作成し(園長、主任が確認)、保育園の外に出る時には、子どもの危険な行為を予測し、各保育士の事故に対する意識徹底を図ってきた。

②お山の子育てサロン(単独子育て支援事業)

年々療育支援を必要とする子が増えている中で「子どもの発達に課題を抱えている」「孤立しがちな親子」「子育てに疲れているお母さん」に配慮し、一時預かりをすすめたり、市保健師と連携をとって市の療育教室「げんきっこ」に通級できるように支援をしてきた。